

(試験研究課題年次別解説集様式3号：完了課題用)

マダイのイリドウイルス感染症に関する研究

(予算区分 県単 研究期間 平成14～16年度)
栽培漁業センター

【研究の背景とねらい】

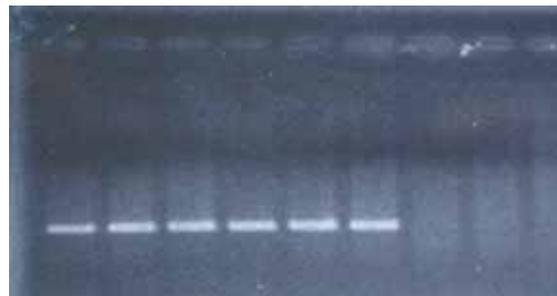
- マダイイリドウイルス感染症は、マダイ養殖において夏から秋の高水温期にしばしば発生し、治療する薬剤がないため、餌止めやビタミン剤で被害拡大を防止していますが、十分な効果がなく、また、早期発見が困難で対応が遅れ、大きな被害を出しております。
- そのため、感染魚の早期発見方法及び被害予防対策を検討しました。

【研究成果】

- 死亡する前の、肉眼的に異常が見られない段階のマダイの脾臓から、PCR法*によりイリドウイルスを検出することができました。水温25℃では死亡する5～6日前に、20℃では死亡する11日前にウイルスが検出できました。
- イリドウイルスに感染耐過したマダイは、イリドウイルスを保有していることがわかりました。
- 実験感染魚について死亡前に餌止めを行いました、明らかな効果は見られませんでした。



マダイイリドウイルス感染病魚

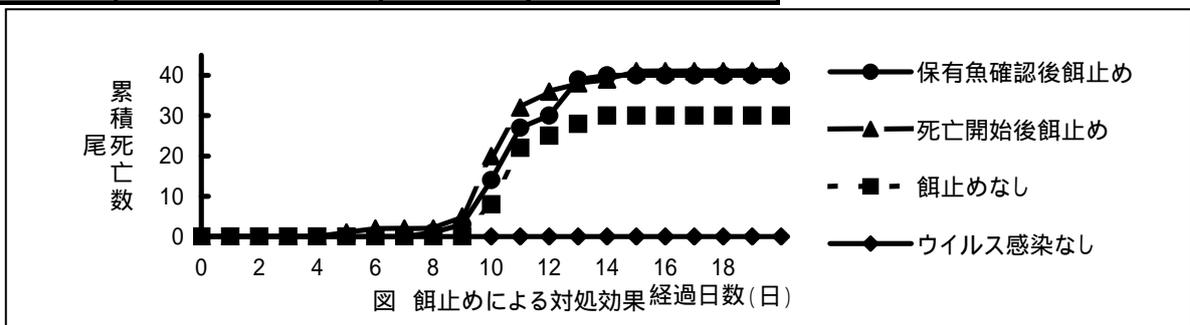


PCR法により死亡前のマダイから検出されたイリドウイルス(白いバンドが検出されたウイルスDNA)

表 マダイイリドウイルス攻撃後の保有魚検出日数と死亡開始日数

飼育水温 (℃)	攻撃後の日数		陽性検出から死亡 開始までの日数
	ウイルス保有魚検出	死亡開始	
25	3	9	6
20	6	17	11

* PCR法：微量の遺伝子を増幅させて検出する方法



【成果の普及方法】

研修会で技術情報を普及するとともに、随時行う魚病診断において感染魚の早期発見を行い、養殖業者に早めの対処を指導します。

(作成 平成17年3月)